

平成30年度長期研修生 研究主題一覧

県総合教育センター研修企画部
(勤務校は平成30年度)

番号	研修区分	研修分野	氏名	勤務校	研究主題
1	教科等	国語	浅野 英樹	船橋市立飯山満南小学校	読書力を育成するための、読書と読解を融合させた言語活動の開発 —読書ネットワークを活用した、低学年における児童文学シリーズの読書紹介活動—
2	教科等	国語	新井 翔	鎌ヶ谷市立東部小学校	対話を続け意見を育てる意見文指導 —対話的な場「校内投書」の設定と情報を関係付ける力の育成を通して—
3	教科等	国語	高橋 めぐみ	印西市立宗像小学校	複数の情報を関係付ける読む能力の育成 —テーマ読書や読書活動を通して—
4	教科等	国語	江澤 真弓	勝浦市立総野小学校	学力向上に資する国語科と各教科を連携させた書くことの学習指導 —学習指導過程、個に応じた支援、学習材の工夫を通して—
5	教科等	国語	木村 大樹	茂原市立茂原小学校	問題解決能力としてのコミュニケーション能力の育成に関する研究 —地域社会における問題に取り組む単元開発を通して—
6	教科等	国語	野口 絢子	流山市立南部中学校	古典に親しむ態度を育む古典入門単元開発 —昔話を史記川柳に翻作する活動を通して—
7	教科等	社会	佐藤 祐介	松戸市立六実小学校	児童の選択・判断する力を育成する小学校歴史学習の構想 —児童が葛藤しながら判断していく学習活動を意図的に設定した単元開発を通して—
8	教科等	社会	青木 康悦	鴨川市立東条小学校	問題発見・問題解決力を育むための地域教材の在り方 —「庄内平野と長狭地区の米作り」を通して—
9	教科等	算数	野田 裕行	八千代市立萱田小学校	算数・数学の問題発見・解決の過程に「問題づくり」を取り入れた学習過程 —「速さ」の授業実践を通して—
10	教科等	算数	秋山 翼	銚子市立豊岡小学校	数学的な表現を用いて、よりよく問題解決を進める児童の育成 —文章題解決における問題の理解を促す段階的指導を通して—
11	教科等	算数	長谷川 美和	佐倉市立西志津小学校	統合的・発展的な考え方を身に付けるための指導方法の研究 —「まとめよう 広げよう 深めよう」シートの活用と授業展開の工夫を通して—
12	教科等	算数	藤本 健康	君津市立北子安小学校	類推的に考えて問題を解決することのできる児童の育成 —数と計算領域における解決の見通しをもつ場面を通して—
13	教科等	算数	品川 瑠美	東金市立丘山小学校	「かさ」についての豊かな感覚を育てる算数科指導 —幼児期とのつながりを意識し、操作的な活動を取り入れた授業展開を通して—
14	教科等	数学	原田 辰司	鋸南町立鋸南中学校	中学校数学科における「関数の考え」に着目した一次関数の利用の指導 —全国学力・学習状況調査を活用して—
15	教科等	理科	吉田 泰則	習志野市立実籾小学校	イメージ図を用いた対話的な学習を通して思考力、判断力、表現力を高める授業 —電磁石の性質の学習を通して—
16	教科等	理科	香取 宏祐	東庄町立石出小学校	実験活動に見通しをもたせる理科指導 —データの取り方を決定する場面の工夫を通して—
17	教科等	理科	藤平 健太	大多喜町立大多喜小学校	学びに向かう力を涵養する理科学習 —導入と終末における見通しと振り返りを促すOPPAを通して—
18	教科等	理科	齋東 俊直	市原市立内田小学校	理科を学ぶことの有用性を高める授業づくり —日常生活と関連させた問題解決学習を通して—
19	教科等	理科	篠原 孝司	大網白里市立増穂中学校	探究学習が理科の学習意欲に及ぼす影響に関する実践研究 —中学校第1学年「物質のすがた」を事例として—
20	教科等	音楽	渡邊 希子	南房総市立和田小学校	生活や社会の中の音や音楽と主体的に関わる力を育てる題材開発 —郷土に伝わる音楽の特徴を生かした音楽づくりを通して—
21	教科等	音楽	片岡 愛佳	野田市立東部中学校	創造的に音楽に関わり表現する楽しさを実感できる音楽科指導の在り方 —対話的な学びを取り入れた創作活動を通して—
22	教科等	体育	岩城 節臣	船橋市立高郷小学校	マット運動における思考力を育む体育学習の在り方 —「できる—できない」の狭間に着目して—
23	教科等	体育	吉田 恭一	八千代市立勝田台小学校	主体的・対話的で深い学びを通した体育授業と学級集団意識の関連性
24	教科等	体育	森田 裕一	流山市立鎌ヶ崎小学校	三つの資質・能力をバランスよく育む学習指導過程の検討 —協同学習を踏まえたハンドボール単元を通して—
25	教科等	体育	江越 雅之	香取市立小見川北小学校	誰もが空中における身体動作を習得できるはさみ跳びの学習の在り方 —主要局面に着目した高学年の走り高跳びの教材開発を通して—
26	教科等	体育	青江 智史	芝山町立芝山小学校	「蹴る」「止める」の動きを高める授業実践 —小学校低学年の「ボールゲーム」の教材づくりを通して—
27	教科等	保健体育	中村 美智恵	船橋市立古和釜中学校	「生活習慣の課題を主体的に考え、自ら解決する能力の育成」 —「休養及び睡眠と健康」の保健学習を通して—
28	教科等	保健体育	宮川 尚久	習志野市立第三中学校	中学校ベースボール型「易しい投球に対する打撃」技能向上を図る教材の開発 —外野への打球提供数増加に伴う守備学習機会増加に向けて—
29	教科等	芸術(書道)	中山 晃男	県立君津高等学校	地域とともに歩む学校づくりと高校生の担う役割について —“教えることは学ぶこと”の実践を通して資質・能力の向上を図る—
30	教科等	外国語活動	佐藤 悦子	我孫子市立我孫子第三小学校	文構造への気付きを取り入れた小学校外国語科の英語運用力の指導の効果 —「思考力、判断力、表現力等」を高める単元構成を通して—

番号	研修区分	研修分野	氏名	勤務校	研究主題
31	教科等	外国語活動	中馬 暁子	松戸市立相模台小学校	第二言語使用に対する「自信」を高める外国語活動の在り方 —学級担任主導による持続可能な授業を目指して—
32	教科等	外国語活動	平岡 紗季	松戸市立小金北小学校	外国語科における、児童の「聞く力」、「話す力」を伸ばすカリキュラム・マネジメント —45分授業との関連性を明確にした短時間学習の効果の検証—
33	教科等	外国語	高島 健治	浦安市立浦安中学校	思考力を働かせる学習サイクルの構築 —定型表現で終わらない「やり取り」の力を育成するために—
34	教科等	道徳	原 博恵	市原市立国分寺台東小学校	多視点的な見方を獲得し、よりよい自己決定を導くための道徳科授業の展開 —思考ツールと宿題を活用した授業の実践的研究—
35	教科等	道徳	尾花 桃代	船橋市立船橋中学校	生徒の問題意識を基にした体験対話型道徳授業 —一人とのつながりを通して自分について深く考えるプログラムの提案—
36	教科等	総合的な学習の時間	門間 雅利	野田市立閑閑小学校	児童自ら思考スキルを選び活用する総合的な学習の時間 —思考スキルの習得・活用を通して—
37	教科等	総合的な学習の時間	谷田 なつ美	野田市立山崎小学校	持続可能な社会の創り手を育てる学習プログラム開発 —第6学年 ESDの視点に立ったキャリア教育×国際理解教育の有効性—
38	教科等	生徒指導	矢旗 惟	香取市立佐原小学校	児童の「問題行動」を未然に防ぐ発達援助的（開発的）教育相談の在り方
39	教科等	学級経営	大野 聡美	市川市立北方小学校	小学校の担任教員は学級経営をどのように考えているか —リフレクションを通して見えてくるもの—
40	教科等	学校・学年・学級経営	重栖 充暁	長生村立長生中学校	資質能力を高める効果的な校内研修の在り方 —全国の教員等育成指標の考察から—
41	教科等	保幼小連携	吉野 里美	勝浦市立勝浦小学校	学びの連続性を図るための指導の在り方 —幼児期の育ちや学びを生かした教科横断的な指導の実践—
42	特別支援教育	知的障害	村山 智恵子	習志野市立袖ヶ浦西小学校	特別支援学級在籍児が行う相互にとって学びのある交流及び共同学習 —ツールによる目標設定と評価、その共有化を通して—
43	特別支援教育	情緒障害	野村 隆之	茂原市立東郷小学校	ASD傾向のある児童の主体的活動におよぼす運動効果に関する事例研究 —ムーブメント教育・自立活動の考えを生かした運動プログラムの実践を通して—
44	特別支援教育	発達障害	宮越 淳	木更津市立木更津第一小学校	自閉的傾向のある児童の「考え、議論する道徳」の指導 —「二つの意見」を用いた授業づくり」に焦点をあてて—
45	特別支援教育	言語障害	名波 美喜	木更津市立高柳小学校	流暢なひらがな読み習得のための統合プログラム —通級による指導担当と小学校1年生学級担任が協働して行う読みの早期支援—
46	特別支援教育	肢体不自由	井田 尚子	県立松戸特別支援学校	生きる力となるコミュニケーション力を育む国語学習 —ロールプレイングと短歌創作を通して—
47	特別支援教育	重度・重複障害	山田 康朝	県立四街道特別支援学校	個別の指導計画の作成に関わる研修プログラムの導入と試行 —重度重複障害児の自立活動の指導の充実をめざして—
48	特別支援教育	視覚障害	藤間 理沙子	県立千葉盲学校	知的障害を併せ有する視覚障害児への歩行指導の在り方 —白杖導入における指導に関する考察—
49	特別支援教育	特別支援教育課題	荻野 智美	県立習志野特別支援学校	特別支援学校が行うセンターの機能を活用した学校コンサルテーションについての一考察 —小学校における通級を軸とした校内連携に着目して—
50	特別支援教育	特別支援教育課題	小林 寛子	県立印旛特別支援学校	知的障害のある生徒のキャリア発達を支援する取組の一考察 —「学習活動に「意味付け」をする」ホームルーム活動の対話と生徒のための10分会議を通して—
51	教育臨床	教育臨床	村上 香織	市川市立富美浜小学校	子どものサインに早期に気づき関わる教育相談 —教育相談的気づきに着目して—
52	教育臨床	教育臨床	千葉 芳子	四街道市立四街道北中学校	
53	教育臨床	教育臨床	林 まゆ美	館山市立館山小学校	
54	教育臨床	教育臨床	加藤 昌也	県立銚子特別支援学校	
55	教育臨床	教育臨床	進藤 浩子	県立千葉北高等学校	
56	企業等派遣	企業等派遣	伊藤 大介	県立東金特別支援学校	ジョブコーチ支援から学ぶ進路指導の在り方
57	企業等派遣	企業等派遣	根本 伸子	県立特別支援学校流山高等学園	時代への対応力を学ぶ —変わらないのに新しい人間力—
58	企業等派遣	企業等派遣	佐久間 咲子	県立飯高特別支援学校	障害者雇用の定着率を高めるための進路指導の在り方
59	企業等派遣	企業等派遣	小山 和紀	県立君津高等学校	ICTを活用して生徒が主体的に学ぶ力を育てる方法 —教育産業の現場から学ぶ—
60	企業等派遣	企業等派遣	關 隆行	県立楨の実特別支援学校	民間企業での実践から学ぶ —企業の取組から学校の業務改善を考える—
61	企業等派遣	企業等派遣	田中 敏則	市川市立第八中学校	球団の組織マネジメントに学ぶ学校経営の手法
62	企業等派遣	企業等派遣	櫻村 雅子	柏市立柏第八小学校	顧客満足を生む企業努力に学ぶ —子どもが登校を楽しみにする学校づくりにむけて—
63	企業等派遣	企業等派遣	原 摂子	神崎町立米沢小学校	企業に学ぶ組織マネジメントと人材育成の在り方
64	企業等派遣	企業等派遣	堀口 信	県立千葉商業高等学校	ものづくりの企業の活動に学ぶ

- ・研修区分の教科等、特別支援教育、教育臨床については、教育コンテンツ・データベース「Wakaba」で閲覧することができます。
- ・千葉県総合教育センターWeb サイトトップページ→学校支援／授業支援→学習指導案等で検索してください。

小学校編

特別支援学級在籍児が行う相互にとって学びのある交流及び共同学習
ーツールによる目標設定と評価、その共有化を通してー

習志野市教育委員会指導主事
(前習志野市立袖ヶ浦西小学校教諭) 村山 智恵子



1 研究主題について

学習指導要領（2017）等において、交流及び共同学習の推進が記載されている。実施の手引きとなるガイドブックは多いが、「校内交流」といわれる特別支援学級と通常学級が日常的に行う交流及び共同学習に活用できるものはあまり見当たらない。取組の必要性や意義は理解していても、どのように取り組めばよいか分からない等の現状があり、両学級担任の共通理解が特に重要であると考えた。この課題に取り組むためには、学校全体で取り組む意義や目的を理解したり、目標や指導方法を共有したりするためのツールを含む仕組みが必要と考えられ、本研究主題を設定した。

2 研究内容

(1)調査研究(聞き取り調査)

通常学級担任は、交流及び共同学習の必要性や有効性は理解しているものの、特別支援学級児童の実態や対応の仕方に不安を感じていた。特別支援学級担任は、通常学級担任との連携方法や交流及び共同学習の開始時期等に困り感をもっていた。

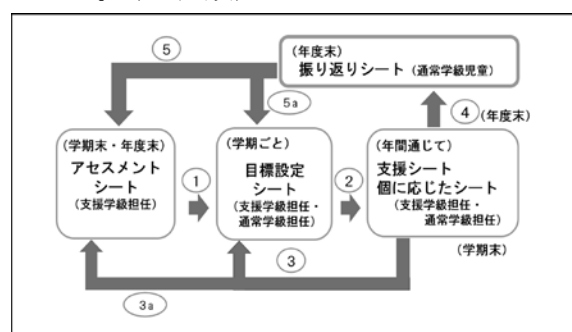
(2)実践研究

特別支援学級と通常学級が相互に学びのある交流及び共同学習を実践するために、五つのシートから成る「特別支援学級校内交流及び共同学習実践ツール」を作成した。

- ①「アセスメントシート」：交流及び共同学習を実践する上で必要と考えられる実態（通常学級での行動）を把握するシート。
- ②「目標設定シート」：障害理解教育等を参考に、通常学級の目標（14項目）を作成し、学級の実態に合わせて選択式とした。特別支

援学級の目標は、児童の実態や障害の状況に合わせて記述式とした。

- ③「支援シート」：単元や行事等の目標や支援などを共有するシート。児童の変容・支援効果も記入し、支援方法の検討資料とした。
- ④「個に応じたシート」：対象児自身が具体的な目標を理解・把握するシート。（2種類）
- ⑤「振り返りシート」：交流及び共同学習の年間の評価として、通常学級児童が記入するシート。（3種類）



(3)実践ツールのマニュアルの作成

上図のように、年間周期のPDCAサイクルでツールを活用することによって、相互にとってより学びのある交流及び共同学習を行うことができるようになる考えた。

3 研究のまとめ

「アセスメントシート」の作成・活用により、交流及び共同学習における実態把握が可能となった。また、「目標設定シート」で、両学級の目標を共有し視点を明確にして話し合うことができた。今後は、「個別の指導計画」と関連付けながら、ツールの見直しを進めるとともに、ツールの一層の活用を図っていきたい。

教育臨床編

子どものサインに早期に気づき関わる教育相談

ー教育相談的気づきに着目してー

県立香取特別支援学校教諭

(前県立銚子特別支援学校教諭) 加藤 昌也



1 研究主題について

本研究では、学校で子供と最も身近な立場である教員が、子供の心理的背景を推測し理解するために、①小さなサインを見逃さずに気づくこと、②ベテラン層教員から若年層教員への「気づき」に関わる指導や継承の2点に着目して調査を進め、全教員が生かせるような子供に対する理解の一助となる視点を得たいと考え、本主題を設定した。なお、本研究では、観察によって認識した子供の様子・状況に「普段と違う」「何か変だな」と感じることを「教育相談的気づき」(以下、「気づき」と定義する。

語られた。この抽象的な概念を可視化し、リストと併せて全教員に伝えていくことが、「気づき」を高める効果につながると考え、「教育相談的気づきを高める7項目」(以下「7項目」としてまとめた。(資料)

①	関わりの中での気づき ー子どもとの積極的な関わりによって、気づきを得るー
②	子どもへの期待の保持 ー子どもの可能性を信じ、成長を見守るー
③	子どもとの信頼関係 ー子どもと教員の適度な距離感を保つー
④	経験からの振り返り ー自分の行動を振り返り、今後の対応に生かすー
⑤	教師としての自覚 ー教師としての倫理観・目標・理想を持ち、一貫性がある指導をするー
⑥	メンタルヘルス ー周囲の教員との関わりを大切にしながら、心身の健康を保つー
⑦	自分を知る ー自分の性格や得手不得手を理解し、子どもの指導や対応をするー

資料 教育相談的気づきを高める7項目

2 研究の実際

(1)「子どものサイン気づきリスト」作成

多くの教員の「気づき」を集めたいと考え、自由記述の質問紙調査を実施した。218名の回答を分類した結果、四つの大カテゴリーと30項目から成る「子どものサイン気づきリスト」(以下、「リスト」)を作成することができた。調査からは、教員同士で「気づき」を補い合う必要があることが示唆された。

(2)「子どものサイン気づきリスト」活用

若年層教員にリストを配付し、3週間の実践後、質問紙調査を行った。調査結果からはリストへの高い関心が示され、さらに積極的な回答をした多くの教員は「視点の広がり」「対応の向上」を実感していることが示された。一方、リストの活用に困難さを感じている回答もあった。

(3)子どもの対応に長けた教員への聞きとり

授業観察後の聞きとり調査から、共通して「気づき」の他に感覚・内省に関わる内容が

3 研究のまとめ

(1)成果

- ①リストに若年層教員が興味を示し、活用することで「気づき」「対応」の一助となった。
- ②教員へ伝えたい「7項目」をまとめ、子供への理解の一助となる視点を得た。

(2)課題

- ①校内全体で「気づき」を補う必要がある。
- ②リストの配付や活用方法を工夫する。
- ③「7項目」について継承する。

子供の全てを理解できる教員はいない。だからこそチームで子供を見守り、真摯に子供に向き合わなければならない。謙虚に学び、自身を磨くことが「気づき」を高め、その姿勢が教育相談の充実につながると考える。

本研究で作成した「子どものサイン気づきリスト」は、県総合教育センターのWebサイトからダウンロードが可能である。

(共同研究者：村上香織、千葉芳子、
林まゆ美、進藤浩子)